進路通信
スタートライン

狭山市立入間野中学校
３学年　　進路通信
担当　　〇〇　〇〇
第９号
２０２２．７．１９（火）

夏休みに向けて

１学期が早くも終わりを迎えようとしています。そして４２日間の夏休みに入ります。この夏休みは「受験生として迎える夏休み」「義務教育最後の夏休み」となるわけです。この夏の期間は、皆さんの学力向上を図るための貴重な機会となります。時間を有効に活用し、「学習」に力を入れた夏休みを過ごしてほしいと思います。

今号では、先日配布された埼玉新聞（入試対策特集）の記事を参考に、「夏休みの過ごし方」をいくつか紹介します。

①受験モードに切り替えよう

この夏を機に、考え方や行動を「受験」中心にしていきましょう。体調管理や生活リズムなど、「受験本番」に備えた生活を意識していきましょう。

②時間の使い方をよく考えよう

普段の学校生活（授業）がない夏休みは、時間がたっぷりあるような気分になります。しかし「学校」に拘束されず自由であるというのが、非常に怖いところです。この自由な時間に普段の授業と同じ量の勉強が出来る人と、そうでない人で大きく差がついてしまう可能性が高いです。そのことを心に留めておきましょう。

③弱点補強は余裕のある今のうちに取り組もう

弱点（苦手）教科や苦手な単元がはっきりしている人は、この夏休み中に克服することをおススメします。入試が近づいてくるとそうした時間が取りづらくなり、それが焦りにつながります。苦手をそのままにせず、少しでも出来るようにすれば自信にもつながります。特に苦手なものがない人は、得意分野をさらに伸ばせるようにしていきましょう。

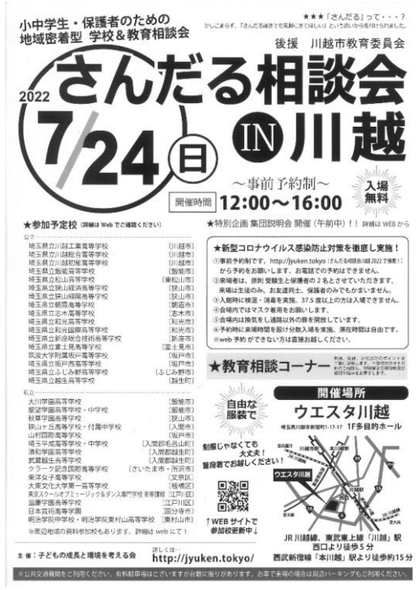
④説明会、体験入学は積極的に参加しよう

過去２年間と違い、今年度はオンライン形式による説明会が減り、対面による形式が復活しました。ただし参加人数の制限等の関係で「事前予約制」がほとんどです。すでに申し込みが始まっている学校が多いので、各自ホームページ等で調べて、積極的に参加しましょう。高校の雰囲気を感じると、学習のモチベーションにもつながるはずです。参加した際には、夏休みのしおりにある「説明会報告書」のページに記録を取りましょう。（新型コロナウイルスの新規感染者数が再び増加傾向にあり、説明会等の日程や内容に変更が生じる可能性があります。各高校のＨＰをこまめに確認してください）

⑤入試の出題傾向や出題形式は早めに確かめよう

入試の過去問は市販されていたり、ホームページ上に掲載されていたりします。過去問にいつから取り組むのが良いかというのは様々な考え方がありますが、一つの意見として「夏休み中に少しは過去問に触れておく」と良いと思います。学校の定期テストと実際の入試問題では、問題の出し方や解答の仕方に違いがあると思います。そうした入試ならではの傾向をつかむことで、学習の仕方も変わってくるかもしれません。

進路関係のプリントや掲示を確認しましょう。



先週、左の２枚のプリントを配布しました。
７／２４（日）開催の「さんだる相談会 in 川越」に関するものと、「埼玉私学フェア」に関するものです。参加を検討される場合は、どちらも事前予約が必要です。複数の学校の説明を聞くことが出来る機会ですので、参加してみてはいかがでしょうか。